

ラテン・アメリカ政経学会第57回定期大会  
Perspectives on Latin America in Transition

プログラム

<2020年9月8日版>

日時：2020年11月14日・15日

場所：オンライン

主催：ラテン・アメリカ政経学会

共催：名古屋大学国際開発研究科

11月14日（土）		11月15日（日）	
		8:00-9:30	Special Session 1 Latin America in the Pandemic I
9:30-11:30	理事長ウェルカムスピーチ 基調講演	9:45-11:30	Sesión Especial 2 América Latina en la Pandemia II
12:00-13:30	特別企画 ラテンアメリカ 研究のグローバル化	11:45-12:15	総会（資料配布・質問受付は 事前に行う予定）
		12:15-13:00	懇談会（自由参加）
13:45-15:45	Session 1 国際関係	13:00-15:00	Session 3 Spatial Dependence and Regional Convergence
16:00-18:00	Session 2 政治と市民意識	15:15-17:45	Session 4 次世代の食料供給の担い手

★各セッションの参加には、事前登録が必須です。事前登録は10月1日より受け付ける予定ですので、ウェブページおよびMLをご確認ください。

★使用言語は、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語です。タイトルやセッション名の言語と報告に使用される言語が実際には異なる場合があります。

11月14日(土)

---

◆9:30-11:30

---

ウェルカムスピーチ

谷洋之 ラテン・アメリカ政経学会理事長

基調講演

Santiago Levy (Brookings Institution)

\* Moderator: Naoko Uchiyama (Tokyo University of Foreign Studies)

---

◆12:00-13:30

---

特別企画 ラテンアメリカ研究のグローバル化：東アジアからの貢献

Guo Jie (Peking University)

Yun-Joo Park (Keimyung University)

Nobuaki Hamaguchi (Kobe University)

\* Moderator: Isamu Okada (Nagoya University)

\* Discussant: Melba Falck (University of Guadalajara)

---

◆13:45-15:45

---

Session 1 国際関係

\* 司会：田中高（中部大学）

中国の「マスク外交」とラテンアメリカ

大場 樹精（外務省・専門分析員）

\* 討論者：岸川毅（上智大学）

ブラジルにおける中国の文化外交と孔子学院の役割

舛方 周一郎（東京外国語大学）

\* 討論者：子安昭子（上智大学）

ジャマイカとトリニダード・トバゴにおける外国に対する意識調査の考察

森口 舞（名城大学）

\* 討論者：松本八重子（亜細亜大学・非常勤講師／上智大学・非常勤講師）

---

◆16:00-18:00

---

**Session 2 政治経済**

\* 司会：久松佳彰（東洋大学）

ブラジルの「新しい労働運動」から誕生した CUT の変遷

近田 亮平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

\* 討論者：小池洋一（立命館大学）

北米地域統合の行方 一米墨関係を中心に一

所 康弘（明治大学）

\* 討論者：安原毅（南山大学）

11 月 15 日（日）

---

◆8:00-9:30

---

**Special Session 1 Latin America in the Pandemic I**

*Coping with Covid-19 in Brazil*

Rodrigo Pires de Campos (University of Brasilia) and Celia Almeida (National School of Public Health, Oswaldo Cruz Foundation)

*Life and Death During the First Eight Months of the Covid-19 Pandemic: An Exploration of Cross-Country and Within-Country Differences in Quantity and Quality of Life*

Lykke Andersen (SDSN Bolivia)

\* Moderator: Carlos Mendez

\* Discussant : Mikio Kuwayama (Kobe University)

---

◆9:45-11:30

---

**Sesión Especial 2 América Latina en la Pandemia II**

*Evolución e impacto de la epidemia del coronavirus en el Perú*

S. Pilar Sugimoto (Universidad Peruana de Ciencias Aplicadas)

*Contexto socioeconómico de la pandemia COVID-19 en México*

Enrique Valencia Lomeli (Universidad de Guadalajara)

*Institutional performance in times of pandemic: Policies in Latin America to fight Covid-19 in light of the SDG 16*

Alejandra María González (Part-time lecturer, Nanzan University)

\* Moderador: Yusuke Murakami (Universidad de Kioto)

\* Discutidor: Takahiro Miyachi (Universidad de Tokio)

---

◆ 13:00-15:00

---

### Session 3 Spatial dependence and regional convergence

*Human Capital Constraints, Spatial Dependence, and Regionalization in Bolivia: A Spatial Clustering Approach*

Erick Gonzales (United Nations Agency for Disaster Risk Reduction)

*Social and Economic Disparities in South America: A Spatial Convergence Approach*

Carlos Mendez (Nagoya University)

*Spatial Beta-Convergence and Forecasting Models: Evidence from Municipal Homicide Rates in Colombia*

Felipe Santos-Marquez (Nagoya University, Master student)

\* Moderator: Carlos Mendez (Nagoya University)

\* Discussants: Nobuaki Hamaguchi (Kobe University), Yoshimichi Murakami (Kobe University)

---

◆ 15:15-17:45

---

### Session 4 次世代の食料供給の担い手：ラテンアメリカの農業経営体

\* 司会：清水達也（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

ブラジル・セラード地域における大規模農業経営体の経営管理

清水達也（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

チリの輸出向け果樹栽培における雇用型経営

村瀬幸代（北海道大学・非常勤講師）

ブラジル・アルゼンチンの大豆生産に係るバリューチェーンファイナンスについて

林瑞穂（農林水産省農林水産政策研究所主任研究官）

チリの一次産品産業における技術革新

北野 浩一（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

\* 討論者：飯塚倫子（政策研究大学院大学）

## 発表要旨集

※要旨は、招待企画ではない一部の報告に限られます。

### 11月14日（土）13:45-15:45 Session 1

中国の「マスク外交」とラテンアメリカ

大場 樹精（外務省・専門分析員）

新型コロナウイルス感染症がラテンアメリカ諸国で拡大する中、中国が「マスク外交」を展開している。中国政府によるマスクをはじめとする医療物資の提供だけでなく、在ラテンアメリカ中国大使館や中国人コミュニティからの働きかけも見られる。さらに、ファーウェイなど中国製品の導入もいくつかのラテンアメリカ諸国（台湾国交国を含む）において進んでいる。これらの働きかけは、ラテンアメリカ諸国においてどのように受けとめられているのだろうか。本報告では、まず中国とラテンアメリカの関係を整理し、支援の状況を確認する。そのうえで、こうした働きかけがどのように受け止められているのかについて、新聞報道を中心に分析する。

ブラジルにおける中国の文化外交と孔子学院の役割

舩方 周一郎（東京外国語大学）

文化面で中国の対外進出を考えると、全世界での孔子学院の設置は中国の台頭を物語る代表例である。しかしラテンアメリカにおける孔子学院の役割に基づき中国の文化外交について分析する研究は今まで他地域に比べても少なかった。さらにアジア太平洋・ラテンアメリカ間の経済連携の深化に関する研究に比べても、中国の関与は言語政策など文化面では十分に検討されていない。そこで本報告では政治と文化の観点から、主にブラジルにおける孔子学院の歴史的発展とそのねらい、国内の大学における現状と課題を紹介する。その結果、中国の孔子学院の普及が、ブラジルへの対外政策にいかなる短期的・長期的な利害を生んだのかを解明する。

ジャマイカとトリニダード・トバゴにおける外国に対する意識調査の考察

森口 舞（名城大学）

2018年と2019年にジャマイカとトリニダード・トバゴで行った意識調査の結果及びその一次的な分析を報告する。この意識調査は両国の国民各600人超に対して、カリブ、ラテンアメリカ、そして世界の好きな国、嫌いな国とその理由をそれぞれ尋ねたものである。英語圏カリブにおける二大国といえるこの両国国民の地域に対する感情や、自国に対する意識・イメージが回答からうかがえる。例えば、旧宗主国であるイギリスやアフリカ、インドといったルーツとなる諸国への関心はいずれも決して高くはない。また、互いに対する否定的な感情の強さは両国ともに顕著であり、地域統合の障害のひとつになっている可能性を示唆しているといえよう。

11月14日（土）16:00-18:00 Session 2

ブラジルの「新しい労働運動」から誕生した CUT の変遷

近田 亮平（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

本研究の目的は、ブラジルが政治経済社会的に変化するなか、ブラジルの「新しい労働運動」から誕生した CUT（ブラジル中央労働組合）はどのような変遷を辿り、現在どのような状況に置かれているかを明らかにすることである。はじめにブラジルの労働運動、および、軍事政権と CUT（～1980年代）について説明する。そして、経済の安定化と労働・雇用の柔軟化（1990年代）、CUT を支持母体とする左派労働者党の政権、および、同政権による年金と労働組合の改革（2003～2016年）、労働組合にとって重要な財源である労組納付金の任意化、および、右派で労働組合に敵対的なボルソナロ政権の発足（2017～2019年）という、労働組合の様態に深く関連する変化を取り上げる。

北米地域統合の行方 一米墨関係を中心に

所 康弘（明治大学）

NAFTA25年の諸影響はメリットやデメリットを含め、米墨両国の各産業や各地域、諸階層ごとに多様に現れている。NAFTAの恩恵を受けたのは「米国」で、被害を受けたのは「メキシコ」といった二項対立的には捉えられない。NAFTAからネガティブな影響を受けた階層・地域・産業は、両国にまたがって多層的に存在するからである。だが、その影響の現れ方を仔細に検討すると、米国内ではヒスパニック系労働者の方が、またメキシコ国内では小規模農家・中小零細企業労働者など社会的脆弱層の方が、その受けた影響は大きかった。

折しも今年7月に USMCA が発効した。本報告では、NAFTA25年が米墨両国の労働部門へ与えた不均衡な影響にかんして、市民社会・労働者の側の視点に立脚した議論を整理しながら、論じる。

11月15日（日）9:45-11:30 Sesión Especial 2

Institutional performance in times of pandemic: Policies in Latin America to fight Covid-19 in light of the SDG 16

Alejandra María González (Part-time lecturer, Nanzan University)

Covid-19 has struck the world and humanity in ways never imaginable. This study reviews the policies taken by Latin American countries to tackle the deadly virus based on the sustainable development goal (SDG) 16: Peace, Justice, and Strong Institutions. The study provides a review of the SDG 16 specifically the two targets aimed at reducing corruption and bribery and the creation of effective, accountable, and transparent institutions. The direct relationship of SDG 16 and the institutional performance in dealing with Covid-19 in Latin America is reviewed. The study identifies exposure of vulnerable and weak institutions, cracked health systems, inequality in receiving assistance, poverty and economic crisis amid the deadly virus, lack of transparency in

government spending, and violations to human rights and democratic values. Specific cases on policies imposed by the governments of Brazil, Honduras, and Bolivia are reviewed. Corruption cases such as fraud, embezzlement, price gouging, illicit acts in procuring drugs, testing kits, and medical equipment, including mobile hospitals are identified and analyzed. The study will also highlight Latin American cases in which countries such as Uruguay have contained the pandemic as compared to other Latin American countries.

At last strategic ways on how to strengthen institutions, clear out corruption and improve the dealing of the pandemic in effective and transparent ways are specifically proposed so that the SDG 16 can be achieved by 2030.

11月15日（日）13:00-15:00 Session 3

### **Spatial dependence and regional convergence**

Erick Gonzales (United Nations Agency for Disaster Risk Reduction)

Carlos Mendez (Nagoya University)

Felipe Santos-Marquez (Nagoya University, Master student)

---

This panel session discusses the role of spatial dependence in shaping development outcomes. Analyses that account for the role of space and geographical location provide new insights and help inform the design and monitoring of regional development policies. In this session, three working papers are discussed. The first paper is entitled “Human Capital Constraints, Spatial Dependence, and Regionalization in Bolivia: A Spatial Clustering Approach” This paper evaluates the spatial distribution of five human capital constraints and proposes a new geographical configuration of Bolivia based on those constraints. The second paper is entitled “Social and Economic Disparities in South America: A Spatial Convergence Approach”. This paper evaluates the dynamics of a new subnational human development index, and contrast them with the dynamics of income per capita. The main message of the paper is that spatial dependence and spatial heterogeneity are key factors for understanding socioeconomic inequality at the regional level in South America. The third paper is entitled “Spatial Beta-Convergence and Forecasting Models: Evidence from Municipal Homicide Rates in Colombia”. This paper evaluates the space-time dynamics of homicide rates in Colombia and highlights that spatial dynamics are useful for both understanding temporal dynamics and designing more accurate forecasting methods.

11月15日（日）15:15-17:45 Session 4

次世代の食料供給の担い手：ラテンアメリカの農業経営体

清水達也（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

村瀬幸代（北海道大学・非常勤講師）

林瑞穂（農林水産省農林水産政策研究所主任研究官）

北野浩一（日本貿易振興機構アジア経済研究所）

---

21世紀に入りラテンアメリカは、穀物や青果物の生産において、世界で最も重要な地域の1つとなった。これらの生産を担うのが、家族の規模を越えて成長する農業経営体である。しかし農業経営体は家族の規模を越えると、資源の調達や人材の管理でさまざまな問題が生じる。ラテンアメリカで生産を増やす農業経営体は、これらの問題をどのように克服しているのか。本企画では、チリの輸出向け果樹栽培やブラジルとアルゼンチンの穀物生産に注目し、これらの生産の担い手が、どのように外部から資金や人材を調達してこれを管理しているかを検討する。これにより、ラテンアメリカにおける農業経営の革新が、家族の規模を越える経営体の成長を支えていることを示す。